

人のための知的好奇心マガジン

2011
OCTOBER
NOVEMBER

アクト・フォー
44

ACT4

アクトに抱かれた、美しく孤高の国—スイス



The Power of SWITZERLAND

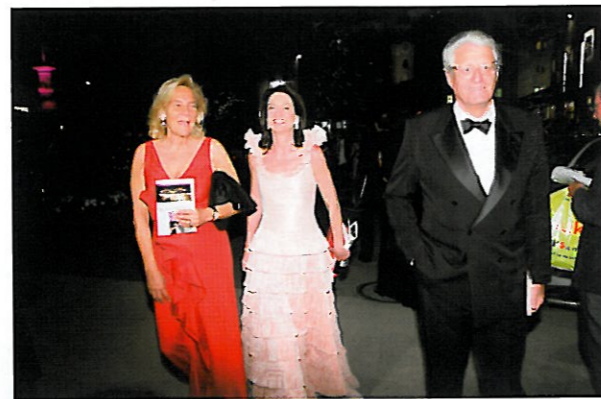
スイスの力

A JOURNEY TO VIENNA'S FIN DE SIÈCLE ART

ウィーン世紀末芸術をめぐる旅



演出家のクラウス・グート氏。今年のザルツブルク音楽祭のモーツァルト3作品はすべて彼の演出だった。



フィガロ役のアーウィン・シュロットとアンナ・ネトレブコもかけつけて。

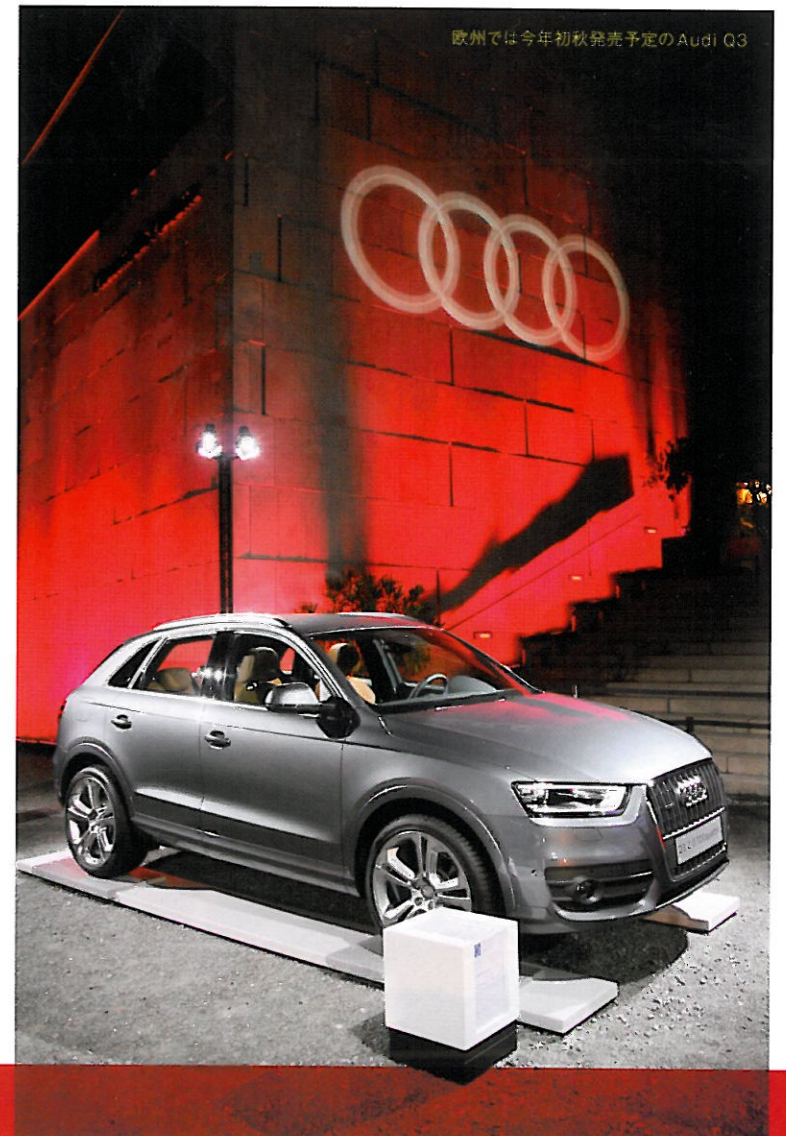


アウディが創る、
夢のような物語

舞台がはねたのが十二時近く。それから私たちは歩いてパーティ会場へと向かう。指定された会場



「フィガロの結婚」を指揮したロビン・ティッチアティもラフな格好でパーティ会場へ。



欧州では今年初秋発売予定のAudi Q3

は山の上にあるM32という美術館。岩山をエレベーターで登って行く。降りたところが美術館入り口で、すでにレッドカーペットが敷かれていて、アウディの新モデルが飾られているなかにパーティ会場へとむかう。ザルツブルクの町がパノラマで見下ろせる絶好のロケーション。涼やかな風を頬に受けながらシャンパンを傾け、オペラの余韻に浸る。これこそ「ACT4」、幸福感に満たされる時間だ。スピーチも乾杯もいっさいなし。それぞれがワインや料理を楽しんでいる。

フィガロを歌ったシュロットがパートナーのアンナ・ネトレブコと手をつないで会場に入ってきた。久しぶりに会うアンナに挨拶をすると、「東京に行けなくてごめんなさい。次回は必ず行くから」と先日のメトロポリタン歌劇場でのラ・ボエームのミニ役のキャンセルをしきりにあやまっていた。そんな会話を楽しめるのも音楽が町と一体化しているザルツブルクならではの楽しみだろうか。音楽に浸り、美酒に酔い、静かな森のなかのホテルへアウディA8で帰る。物語を作る車、それがアウディなのかもしれない。